

# 自閉スペクトラム症児者の心の理解

## 第1回 自閉スペクトラム症児者の心をさぐる



べっぴん さとし/岐阜大学教授。自閉症児・者の発達や指導をライフサイクルを通して研究。著書に『自閉症児者の発達と生活－共感的自己肯定感を育むために』『障害児の内面世界をさぐる』（以上、全障研出版部）など。現在、全国障害者問題研究会常任全国委員。

別府 哲 (岐阜大学)



### ●クリスマス・プレゼント

自閉スペクトラム症のヒロ君。小さいころから言葉に遅れはあまりないのですが、さまざまな感覚過敏があり不安になりやすいところがありました。そのためか、まわりからみるとささいなことで暴れてしまうことを繰り返していました。そんな彼が5歳の時のエピソードです。クリスマスでサンタさんにながほしいというお母さんの問いかけに彼は、「マスク」と言います。そして300円・50枚入のマスクをもらって大喜び。彼はそのマスクを着けて家の前の道路に立ち、お母さんに「みんな（このマスクを見たら）、いいねえっていうかなあ」と言います。ヒロ君はわくわくして道行く人を見つめまです。しかし、通り過ぎる人は、なんだろうと怪訝な顔で振り返るだけでした。

ヒロ君は、小学校に入ってから、同級生に「相撲しよう!」といつて（はたから見ると）一方的に関わったかと思うと、途中で「あ、バツ!」と言い、勝手にとりくみやめて走っていくようなことがよくありました。さきほどのクリスマスのエピソードもそうですが、相手が自分の言動をどう思っているか、うまく理解できていないのでは? と周囲の人が感じてしまう出来事でした。

### ●特定の人への強い関心

そんな彼でしたが、人に関心がなかったわけではありません。逆に、男子でも女子でも気になる子ができると、何度もしの子に近寄ります。それがあまりに激しいので結局、相手の子に「来ないで!」と言われ、怒ってしまうこともありました。

特別支援学級に入った中学生の夏。ヒロ君はキャンプ

のボランティアで出会った女子大生のお姉さんをとてても気に入ります。一緒に参加していたお母さんは、ヒロ君が「電話番号教えて」と言った際、「え?」と困ったように立ち去るお姉さんを目撃します。しかし、そのキャンプの後、ヒロ君はお母さんに毎日のように、「○○さん（女子大生の名前）が、『ヒロ君、結婚しよう』って言ったら、どうしたらいい?」とにこにこした顔で話します。お母さんは、住所教えてもらえなかったでしょ、お姉さんは困っていたんだよ、という不機嫌な顔になります。しかし、彼は翌日になるとまた笑顔で同じ質問を繰り返すのでした。

その後、旅行に行った彼はそのお姉さんにお土産を買います。「今度のキャンプで渡そうね」というお母さんの言葉を無視して、ヒロ君は「これから自分で持つて行く」と言い張ります。その剣幕に、勝手に一人で行くことを心配したお母さんが車を出します。お母さんの予想通り、突然の来訪に驚いたお姉さんは、「ヒロ君とはお友達です。プレゼントはありがとう。でももう家へ直接は来ないでください」とはっきり言われました。

怒るのでは? というお母さんの予想を裏切り、ヒロ君は「さようなら」と言い、車に乗り込みます。お母さんが、「やっぱり言ったとおりでしょ! お姉さん、困っていたよね」と注意しようとしたその時です。彼が乗った後部座席から突然、「う、う、う、う」と小さな声が聞こえたのです。それは、押し殺した彼の泣き声でした。その泣き声は、家へ着くまでの三十分間、ずっと続いていたとお聞きしました。

### ●人の心がわからない?

アメリカ精神医学会が作成した診断基準（DSM-5）では、自閉スペクトラム症は次の二つの基準を満たすものとされています。一つは「社会的コミュニケーション